



さくら

SAKURA

さくら第6号晩秋

平成17年11月28日発行

「我思う、ゆえに吾あり」

—— ころの深夜便から 院長 蜂谷 哲也



秋深し、隣は何をする人ぞ——。

と、冬陽を前にしての此の秋は比較的暖かな日が続き、日本各地の紅葉も例年になく遅い色模様と聞いております。皆さんのお宅の周囲の木々の彩りは如何でしょうか。

「我思う、ゆえに・・・」、「秋深し・・・」、という親しみ慣れた語句がひとしお身にしみて感じられるのがこの季節ですが、皆さんはどのような実りの秋をお迎えになったことでしょうか。日々の暮らしの中で年頭に思い、誓い、望んだことがこの秋に実となって、年の暮れ、そして新しい年へと日を重ねることになります。人間六十年をこえますと、健康のこと、定年のこと、年金のことなど、何かと気がかりな面が多い生活になってしまいがちです。世の中には「熟年」という美辞にも似た呼称もありますが、本当のところは誰しもが来し方を振り返りつつ、これからの老後のことを思案する毎日でもありましよう。

NHK・FM放送の「ラジオ深夜便」をお聴きになったことがある方はご存知と思いますが、午前4時から5時の時間帯には、各界の有名無名を問わず、いろいろな人生出来事を経験してきた方たちとの対談があります。先日の放送では、ある人の述懐として、人生を春夏秋冬に分けるとすると六十歳になって、やっと「人生の実りの秋」に入るのだそうです。で、この「秋季」は、冬を前にしての古い先を憂う季節では決してなく、「本当の実りの秋に感謝する」として、人生で最も輝かしく社会に役立つ年代になるのだと語っておりました。そしてこの黄金期は六十歳から九十歳まで、三十年もの長期に及ぶのだそうです。何と勇気づけられることでしょうか。人間、日々多忙に過ごすほど、物質的に豊かになればなるほど、私たちは「心のあり方」を忘れてしまいがちです。今一度、この言葉と感謝の心を忘れずに「人々・社会」のお役に立つ日々の生活にしていきたいものです。

話は変わりますが、今年のノーベル医学生理学賞の受賞者の一人はロビン・ウォーレンという病理専門医です。ノーベル医学賞というと従来は基礎的な研究に与えられることが多かったのですが、今回、医療の最前線に立つ臨床医でもある二人の医師に与えられたことは私たち医療の現場に従事している者としても、これまた大変勇気づけられることです。

ピロリ菌は胃炎や十二指腸潰瘍そして胃癌発生にも深く関与しているといわれていますが、バリー・マーシャル医師は、自らこのピロリ菌を飲んで己の生身で実験したそうです。博士達の日々の地道な努力が認められたことは大変喜ばしく、私たちも心を新たにしております。

目次:	
我思う、ゆえに吾あり	1
納涼の祭り	2
お月見の宴	2
第11回ゴルフコンペ	2
スタッフ紹介	3
さくら文華祭	4・5
医療知識 「ちょっとみて聞いて」	6
さくら腎友会より	7
お知らせ	8



ノーベル医学生理学賞
ピロリ菌発見豪の2氏
胃がん予防
効果に期待



ピロリ菌



薄暮中秋の月

納涼の祭り



祭りだ、ワッショイ！



パン喰いの乙女？たち

去る8月27日16時から、さくらクリニックの前庭で「残暑払い・納涼の祭」が催されました。前庭には、総務部総出で作り上げた高さ4メートルものモンゴル風の祭り櫓が組み、その四方には色とりどりの祭り提燈が吊り下げられ心躍る景観となりました。当日はクリニック恒例の出店(氷水・ところてん・やきそば・カレーライス・フランクフルト・とうもろこし・金魚すくい)の他に特別の出し物もありました。それはなんでしょう？130名を超える参会者の中から子供・大人入り乱れての「パン喰い競争・あめ喰い競争」が昔懐かしく再現されました。竹ざおに吊るされた中村屋のアンパンが空に揺れるのを、後ろ手の子供や大人がパンに喰らいつく様や、小麦粉の大盆に紛れ込ませたアメ玉を顔面・鼻と口の周りを真っ白けに粉だらけにして喰らいつく様など、今思い出しても笑い崩れてしまいそうなほどの面白い場面の続出でした。クリニック前のロータリーを半周しての競争でしたので、まるで真夏の運動会そのものでした。薄暮の18時から、ダルトン専属の渡辺秀樹さんの司会で、山本泰生さんによるクラシックギター演奏や、キングレコード歌手の千葉はるみさんの歌謡ライブが開かれました。途中、我慢しきれなくてマイクを握る患者さんやその家族の出演もありました。また伝統舞踊家元の藤間万吏也師匠による「ひばりの祭りだ、ワッショイ！」やお馴染みの「マツケンサンバ」の舞いも披露され喝采を浴びました。これに合わせて、職員の女性の多くが浴衣・下駄履き、そして自慢の柳腰？には「祭り」の団扇をさして踊り、去りゆく夏の夜の夢を満喫しました。こうして夜9時、名残惜しくも納涼祭りを終えました。

お月見の宴

9月17日(土曜日)、お月見の宴をクリニック屋上で行いました。例年にならって北海道産のマトン・ラムを大量に用意しました。札幌ビール園に納品されている物と同じ「鋳鍋」を、北海道の「岩見沢鋳物株式会社工場」から特別に寄贈してもらい、その鍋を使っての成吉思汗(ジンギスカン)パーティは盛りに盛り上がり、野菜などはそっちのけでひたすら肉に喰らいつきました。30キログラムもの羊肉は瞬間にどこかへ消えてしまいました。血中のリンの値は子供も大人も極値に達したことでしょう。もちろん、ススキや団子もお供えされました。きっと参会の全員が、この夜は満足々で「子羊の数」を数えることも忘れてグッスリ眠れたことでしょう。



成吉思汗、ここにあり！

第11回「さくら高爾夫会」のゴルフコンペ

11月6日(日)前回同様「丸の内倶楽部」で患者さん、関係業者、職員を交えてのゴルフコンペが開催されました。日頃の行いが良いのか？天候にも恵まれ、まさにゴルフ日和といった日に、総勢17名の方たちに参加していただき親睦を深めることが出来ました。ゴルフ初心者から腕に自信がある御仁まで笑いあり涙ありの18ホールでした。優勝は、GROSSともに職員の栗飯原氏、ドラコン賞はU社の中田氏と栗飯原氏、ニアピン賞はN社の米川氏・C社の田辺氏・栗飯原氏でした。次回のゴルフコンペは来春を予定しています。(ゴルフに夢中になりすぎたせいか、集合写真を撮るのを失念してしまいました。)



「仕事は仕事！ゴルフはゴルフ!!!」ホントかな？
優勝の栗飯原氏

スタッフ紹介

今回は入院病棟のスタッフをご紹介します。
透析室にも、たまにお邪魔していますよ。

看護部 坂下 稔子

病棟専属の年齢が高いほう？の看護師です。経験と精神パワーで今でも働いています。南国生まれの開放的な部分と、青春時代を東京で育ち江戸っ子的なチャキチャキとした性格と遊び心を持った性格です。看護師として若い頃から現在まで35年余り、患者さんと接してきました。若い頃は意欲的に何でも興味があり経験したいと、婦人科・外科・整形・脳外科・形成外科・オペ室・救急外来を勤務し、55歳の頃より透析勤務をしています。私は忙しいのは好きです。何事も忘れずから・・・家では何もしない主婦に見られますが家事はちゃんとやっています。若い頃から家に一日中居た事が無いので今でも同じ生活パターンを崩していません。外来通院の患者様、時々顔を合わせますが、忘れないで笑顔で会いましょう。活気で負けないように精神力と体力で頑張っていきます。



看護部 亀山 哲子

皆様、こんにちは。とても苦手なのですが自己紹介します。看護学校は船橋でした。卒業後4年間は船橋の病院で働き、その後千葉の病院に勤めたり、プールの救護室でアルバイトしたり、花を扱う仕事をしたり、さくらクリニックへ来る前は流されるまま、こだわりもなく生きてきました。

最近のハマリ事はマンガ本を読むこと(しかも恋愛のもの)。あとは、休日に我を忘れて子供と遊ぶことです。こんなフツウの私ですが頑張って患者さんのための看護や医療をと考えながら働いていますのでよろしくご指導をお願いします。見かけたらいつでも気軽に声を掛けてください。



看護部 阪田 芳子

私は長い間透析室の看護助手として働いてきました。11年前に四街道病院、そしてさくらクリニックの2階透析室で働かせてもらってきました。それが3階が病棟になった時、病棟の助手をやるようにとお話をいただきました。病棟で働いた経験もなくちゃんとやっていけるだろうかと不安で悩みました。その時に浮かんできた事は、私の連れ合いがその少し前に病気になって1年間市立病院に入院しました。その間3ヶ月程私が付き添いをしたことです。昼夜なく一生懸命に看護してくださった先生や看護師さんのお蔭で連れ合いは、今は元気に生きております。その時に私が見たり感じたりした事を思い出して自分なりに感謝の気持ちを持ってやっていけば良いのかなと思いました。入院生活と云うものは辛くて不憫なものです。病室を掃除して廻りながら患者さんと看護師さんの間を取りつなぐ役目から始めていけば少しは役に立つのではと考えました。皆様に色々教えてもらいながら少しずつ経験を重ねて来ましたがなかなか思うようにはいかなくて反省の毎日です。今後とも行き届かないことが沢山あると思いますが老骨にムチ打ちながらもう少し頑張りたいと考えております。よろしくをお願いします。



技士部 岩野 絵里子

こんにちは。毎日、寒い日が続きますね！ 私は千葉市稲毛区の出身です。小・中・高・専門学校と稲毛で育ち学校で学んだことを活かし市川市の病院で医療事務の仕事数年やってきました。四街道に引越しをし、しばらくしてこのさくらクリニックに入職しました。透析の仕事は初めてで最初は不安だったのですが、今は楽しく仕事をさせていただいています。時には落ち込んでしまったりする時があるのですが、患者さんの「いつもありがとうね」という言葉を聞くとすごく励ましもらった気がします。毎日が勉強ですが、初心を常に忘れずに頑張っていきますので、これからもよろしくをお願いします。



さくら文華祭 ー自作を競う46作品が展示されるー



玄関ホールの展示

10月17日(月)から、芸術の秋を楽しもう!とのさくら腎友会幹部会の発案で「さくら文華祭」が、「さくら腎友会」と「さくら吹雪の会」の共催で開催されました。患者さんやその家族、クリニックの職員からは、各々自作の品やお宝、秘蔵の品々が出展され、その数26件46作品にもなりました。例を挙げますと患者さん自身で焼き上げた竹炭の花瓶等の工芸品、パッチワーク、折り紙、流木の漆加工品、オリジナルの写真、戦艦大和のポスター等、千差万別、色とりどりの出品作がクリニック玄関ホールに所狭しと供覧されました。又、みなさんの投票により両会長賞、院長賞を初め出展者にはもれなく賞が用意され初の文華祭は、院外からも「大変面白いね」との注目を浴びながら11月20日、閉幕となりました。さくらクリニック院長賞には大野 昇さん、腎友会々長賞には栄養課の戸田 茂さん、さくら吹雪の会々長賞には同じく栄養課の中島美恵子さんがそれぞれ受賞されました。また来年も力作をお待ちしています。



さくらクリニック院長賞
大野 昇
「竹炭 パイッブル・シソ任・銀杏」



腎友会々長賞
戸田 茂
「エンジの老木のうるし塗り」



さくら吹雪の会々長賞
中島 美恵子
「一度作ってみたかった」



金賞
吉田 文江
「平和」



銀賞
猪野 旭
「竹炭の一輪挿し」



銀賞
重田 益男
「からすりの花卉」



銀賞
藤村 豊子
「木目込人形」



銀賞
樋口 弘
「さつまいも」



渡辺 美弥子
「ストール」



吉野 由里子
「サンタクロース」



小林さつき
「一輪挿し」



匿名希望
「ひまつぶし」



三澤 道夫
「ホームラン王」



久保 隆洋
「短歌集」



河村 正二郎
「蘭」



鈴木 晶
「大多喜のお城祭りにおいて」



長谷川 協子
「ビーズの世界」



匿名希望
「ぶどう・ゆず」



木村 千枝子
「たんぼぼの綿毛」



蜂谷 哲也
「男たちの戦艦大和」



吉田 文江
「平和」



橋本 和政
「ふくろう」



高崎 義朗
「キタキツネ」



鎌田 美穂子
「ドリッピング」



Y. S
「松井秀喜のホームランカード」



鶴川 久子
「手拭き」



賞状とさくら文華賞の副賞
「来年干支・福寿戌」

医療知識「ちょっと見て聞いて」

医療情報室

【インフルエンザに備え、**手洗い**と**うがい**を励行しましょう】

鳥インフルエンザ（A型・H5N-1）の猛威に厳戒！！



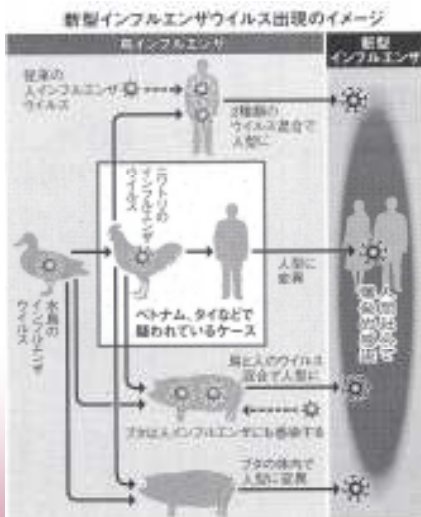
インフルエンザウイルスはA型、B型、C型の3種類があります。そのA型のうち、H5N-1というタイプがアジア各地の鳥類（ニワトリなどの家禽類）に感染し流行が拡大しています。このウイルスが鶏から人へ感染したことが確認され、この冬は、感染した人から人への**パンデミック**（大流行）が予想されています。先年、ベトナムや中国でパニックとなったSARSを超える大流行が懸念されています。抗ウイルス剤としてはオセルタミビル（商品名タミフル）やザナビル（商品名リレンザ）などが用意されていますが、これは従来のインフルエンザに対する薬品であり、必ずしもこのH5N-1型のウイルスに効くとは限りません。

では、通例のワクチン接種はどうでしょうか？毎年行われているワクチン接種は従来の型のインフルエンザウイルスを株種とするワクチンで、理論上はこれもH5N-1型インフルエンザに効

くとは限りません。しかし、身体の免疫力を高めておくという意味ではワクチン接種を行っておいたほうが良いと思われます。海外との行き来が頻繁な今日、ベトナム・インドネシア・タイ・中国などの流行地からの日本への潜入は避けられません。パンデミックになった場合日本では国民の4人に一人が罹患、入院患者200万人、死亡者64万人とされています。

この冬は、従来のインフルエンザと共に新型インフルエンザ（H5N-1ウイルス）に対して十分な防御策を講じておくべきです。それには私達一人ひとりが感染しないことが第一です。不必要な人ごみの中へ入ることは避け、外出から帰った時や三度の食事前や寝る前には「手洗い」と「うがい」を十分に行うことが大切です。

必ず励行しましょう。（Nusing times 12 : 54-55. 1978 より）



中国
感染者 6人
死亡者 1人

読売新聞より抜粋


さくら腎友会より

秋の腎友会旅行<勝沼ぶどう狩り>



さくら腎友会恒例の「秋の日帰りバス旅行」が10月16日(日)に催されました。参加者は、通院患者、瀬戸さくら腎友会々長、栗林さくら吹雪の会々長、蜂谷院長はじめスタッフ、家族も含め総勢67名となりました。大型バス2台で当クリニックを朝7時に出発し、一路山梨の石和温泉に向かいました。途中シャトーワイナリーにて、ワイン工場を見学、お昼は石和温泉で大宴会。その後入浴でゆっくり過ごし、最後に勝沼でぶどう狩りを終えて楽しい1日となりました。

熱烈歓迎
さくら聖誕祭の夕べ(クリスマスの集い)へどうぞ



一出店

- 焼きそば
- チキンスティック
- 冬至おしるこ
- わたあめ
- さくらカレーライス
- *シャンパン
- *クリスマスケーキ



平成17年12月17日(土)
開演：午後4時
終演：午後7時
(於)さくらクリニック・ロイヤルホール

《プログラム》

1. 開会の辞	栗林 清 (さくら吹雪の会・名誉会長)
2. 乾杯	瀬戸 義一 (さくら腎友会・会長)
3. 演奏	パルティータ (マンドリン&ギター演奏) クリスマスメドレー他10曲
4. 来賓歌唱	藍 瑞希ちゃん・紗彩ちゃん 「あわてんぼうのサンタクロース」 鶴川 久子「女船」 高橋 悦子「マディソン郡の恋」 他
5. 奇術	久保 隆洋
6. 演芸一座	「よつかいどうでござる」社中 (大野 昇)
7. キャンドルサービス	代表(点火) 栗林名誉会長
X'masケーキ入刀	お子様軍団
8. プリリアント・コンサート	

スペシャルゲスト
ジェリー藤尾 & 藤尾美貴

9. サンタクロース登場	さくら吹雪の歌
10. 大合唱	お楽しみ抽選 (一家1品)
11. プレゼント	お子様プレゼント さくらファミリープレゼント
12. 閉会の辞	蜂谷院長

クリニックからのお知らせ

●年末年始の透析入室時間について

年末年始(12月30日～1月3日)の入室時間は次のようになります。ご協力をお願いいたします。

I ケール 7:30 ~ 9:00

II ケール 11:00 ~ 14:00

[12/31(土)は11:00~12:00まで]

III ケール[12/30(金)、1/2(月)]は休診です。

※変更がある場合は早めにお申し出下さい。

1/4より平常通りの時間帯となります。

●年末年始の送迎について

通常の体制にて送迎を行います。

●診療時間

月水金 7:30~22:00

火木土 7:30~16:00

●医師担当表

	月	火	水	木	金	土
I	蜂谷 鈴木	蜂谷 鈴木	蜂谷 鈴木	蜂谷	蜂谷	蜂谷 鈴木 深沢
II	蜂谷 鈴木	蜂谷 鈴木	蜂谷 鈴木	蜂谷	蜂谷	蜂谷 鈴木 深沢
III	蜂谷 鈴木		蜂谷 鈴木		蜂谷	

●「パキスタン地震、救援募金」は皆様のご支援によって¥23,333の御芳志を頂きました。11月20日で切らせて頂き、全額日本赤十字本社に寄付させて頂きました。ご協力ありがとうございました。

●年末年始のクリニック・イルミネーションをお楽しみ下さい。今年も綺麗な電飾をお目にかけます。12/1～1/8まで点灯いたします。今年は手製の「さくらタワー」や「天の川」も新しくお目見えます。みなさんどうぞ見にいらして下さい。

編集後記



早いもので、さくらクリニック広報誌も昨年12月の創刊以来、1年が経過しました。昨年のクリスマス会をはじめ、四季のイベントと共にこの広報誌も歩んできた思いがします。小さな広報誌ですが、多くの方々の協力なしでは続けられないことです。本当に有難うございました。

さて、来る12月17日(土)は、夕刻4時より本年末尾を飾る「さくらクリニック聖誕祭」を企画しております。今回はスペシャルライブでジェリー藤尾さん父娘にボランティア出演していただく予定で、今から楽しみにしています。楽しいことはもちろん、スタッフと患者さん、又その御家族ともども心に残る記念の一夜となることと思います。多数の皆様のご参会をお待ちしております。寒さに向かう折、どうぞ御自愛下さい。

発行：医療情報室

編集部員：橋本 和政

三澤 道夫

粟飯原成一

横田 光司

額賀 裕子

鎌田美穂子

さくらクリニック

腎臓内科・一般内科・外科・在宅訪問診療

人工透析(HD・HDF・CAPD)

生活習慣病相談・リハビリテーション訓練

外来透析65床・入院応需19床

〒284-0001

千葉県四街道市大日593-1

電話 043(424)1211

FAX 043(424)1007

顧問 医学博士 深沢 規夫

院長 医学博士 蜂谷 哲也

診療部長 鈴木 俊彦